

株式会社INPEX  
2021年12月期 第2四半期 決算説明会

参考データ集

2021年8月11日



連結子会社および持分法適用関連会社

INPEX

連結子会社 60社

主な連結子会社	国（地域）名	出資比率	フェーズ	決算期
INPEXサウル石油	東チモール民主共和国	100%	生産中	12月
INPEX Ichthys Pty Ltd	オーストラリア	100%	生産中	12月
INPEX Oil & Gas Australia Pty Ltd	オーストラリア	100%	生産中	12月
INPEX南西カスピ海石油	アゼルバイジャン	51%	生産中	12月
INPEX北カスピ海石油	カザフスタン	51%	生産中	12月
ジャパン石油開発	アラブ首長国連邦	100%	生産中	12月
JODCO Onshore Limited	アラブ首長国連邦	51%	生産中	12月
JODCO Lower Zakum Limited	アラブ首長国連邦	100%	生産中	12月
INPEX Eagle Ford, LLC	アメリカ合衆国	100%	生産中	12月

持分法適用関連会社 19社

主な持分法適用関連会社	国（地域）名	出資比率	フェーズ	決算期
Ichthys LNG Pty Ltd	オーストラリア	66.245%	生産中	12月
MI Berau B.V.	インドネシア	44%	生産中	12月
Angola Block 14 B.V.	アンゴラ	49.99%	生産中	12月

## ■ 2021年12月期 第2四半期(2021年1月1日～6月30日)

(単位：百万円)

	日本	アジア・オセアニア	ユーラシア (欧州・NIS諸国)	中東・アフリカ	米州	計	調整額*1	連結財務諸表計上額*2
売上高	57,027	124,722	53,910	257,409	10,489	503,558	△ 5,160	498,397
セグメント利益又は損失 (△)	10,447	44,282	13,098	159,275	4,656	231,760	△ 8,086	223,673

\*1 セグメント利益の調整額△8,086百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用の主なものは、報告セグメントに帰属しないのれんの償却及び一般管理部門にかかる費用であります。

\*2 セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## LPG売上高

	2020年12月期 第2四半期 (2020年1月-6月)	2021年12月期 第2四半期 (2021年1月-6月)	増減	増減率
売上高 (億円)	14	14	0	3.4%

販売量 (千bbl)	160	174	14	8.5%
海外生産分平均単価 (\$/bbl)	35.13	51.23	16.10	45.8%
国内生産分平均単価 (¥/kg)	61.35	78.53	17.18	28.0%
平均為替 (¥/\$)	108.03	107.73	0円30銭円高	0.3%円高

地域別販売量 (千bbl)	2020年12月期 第2四半期 (2020年1月-6月)	2021年12月期 第2四半期 (2021年1月-6月)	増減	増減率
日本	1 (0.1千ト)	1 (0.1千ト)	0 (+0.0千ト)	19.5%
アジア・オセアニア	159	173	13	8.4%
ユーラシア (欧州・NIS諸国)	-	-	-	-
中東・アフリカ	-	-	-	-
米州	-	-	-	-
合計	160	174	14	8.5%

(億円)	2020年12月期 第2四半期 (2020年1月-6月)	2021年12月期 第2四半期 (2021年1月-6月)	増減	増減率
営業外収益	453	367	△ 86	△ 19.1%
受取利息	5	144	138	-
受取配当金	59	34	△ 24	△ 41.2%
持分法による投資利益	307	-	△ 307	△ 100.0%
生産物回収勘定引当金戻入益	-	43	43	-
為替差益	37	-	△ 37	△ 100.0%
その他	44	143	99	223.1%
営業外費用	199	405	206	103.7%
支払利息	115	69	△ 45	△ 39.6%
持分法による投資損失	-	129	129	-
生産物回収勘定引当金繰入額	22	-	△ 22	△ 100.0%
為替差損	-	106	106	-
その他	61	99	37	61.7%

# 利払い・償却・探鉱費前利益 (EBIDAX)

(百万円)	2020年12月期 第2四半期 (2020年1月-6月)	2021年12月期 第2四半期 (2021年1月-6月)	備考
親会社株主に帰属する純損益	△ 120,799	51,982	P/L
非支配株主に帰属する純損益	△ 655	△ 8,182	P/L
減価償却相当額	107,120	108,892	
減価償却費	88,848	77,249	C/F コンセッション契約及び販管費に係る減価償却費
のれん償却額	3,380	3,380	C/F
生産物回収勘定 (資本支出) の回収額	14,892	28,263	C/F PS契約に係る減価償却費相当額
探鉱費相当額	6,925	△ 2,090	
探鉱費	4,692	2,281	P/L コンセッション契約に係る探鉱費
生産物回収勘定引当金戻入益	-	△ 4,371	P/L PS契約に係る探鉱費相当額等
生産物回収勘定引当金繰入額	2,233	-	P/L PS契約に係る探鉱費相当額等
重要な非現金項目	175,982	27,908	
法人税等調整額	△ 13,147	17,405	P/L
為替差損益	△ 3,320	10,503	C/F
減損損失	192,449	-	C/F
税引後ネット支払利息	7,877	△ 5,420	P/L 税引後の支払利息一受取利息
<b>EBIDAX</b>	<b>176,450</b>	<b>173,090</b>	

(百万円)	2020年12月期 第2四半期 (2020年1月-6月)	2021年12月期 第2四半期 (2021年1月-6月)	備考
生産物回収勘定 (期首)	568,377	575,544	
増加：			
探鉱投資	2,248	553	主にイラク Block10
開発投資	14,744	12,094	主にACG、カジャガン、コソソ
操業費	7,650	7,538	主にACG、カジャガン
その他	3,997	1,866	
減少：			
コスト回収 (CAPEX)	14,892	28,263	主にACG、カジャガン
コスト回収 (Non-CAPEX)	8,669	7,896	主にACG、カジャガン
その他	-	-	
生産物回収勘定 (期末)	573,456	561,437	主にカジャガン
生産物回収勘定引当金	69,108	65,072	

## 原油価格・為替レートのセンシティブリティ

## ■ 油価・為替変動の2021年12月期 親会社株主に帰属する当期純利益に与える影響額\*1

油価1ドル上昇（下落）した場合*2	<p>期初時点：+66億円（△66億円）</p> <p>以下の通り、期中に変化します。</p> <p>第2四半期期初時点：+46億円（△46億円）</p> <p>第3四半期期初時点：+24億円（△24億円）</p> <p>第4四半期期初時点：+10億円（△10億円）</p>
為替（円/US\$）1円 円安（円高）になった場合*3	+20億円（△20億円）

\*1 原油価格（Brent）の期中平均価格が1ドル上昇（下落）した場合、為替が1円円安（円高）になった場合の、期初（2021年1月）時点における2021年12月期の当期純利益に対する影響額を試算したものです。当年度期初時点における財務状況を基に試算したものであり、あくまでも参考値であること、また影響額は、生産量、投資額、コスト回収額などの変動により変わる可能性があり、加えて油価及び為替の水準により、常に同じ影響額になるとは限らない点にご留意ください。

\*2 油価変動が当期純利益に与える影響であり、原油価格（Brent）の期中平均価格の影響を受けます。尚、一部のガス販売に適用される油価については遅効性があることを考慮し、下記の通り、センシティブリティの四半期内訳を、試算しております。

- 第1四半期期初時点：+66億円（第1四半期：+10億円、第2四半期：+12億円、第3四半期：+22億円、第4四半期：+22億円）
- 第2四半期期初時点：+46億円（第1四半期：---、第2四半期：+10億円、第3四半期：+14億円、第4四半期：+22億円）
- 第3四半期期初時点：+24億円（第1四半期：---、第2四半期：---、第3四半期：+10億円、第4四半期：+14億円）
- 第4四半期期初時点：+10億円（第1四半期：---、第2四半期：---、第3四半期：---、第4四半期：+10億円）

\*3 為替変動が当期純利益に与える影響であり、期中平均為替レートの影響を受けます。尚、外貨建て資産と外貨建て負債の差から発生する為替評価損益に係るセンシティブリティ（前期末と当期末の期末為替レートの差の影響を受ける）は、ほぼ中立化しております。

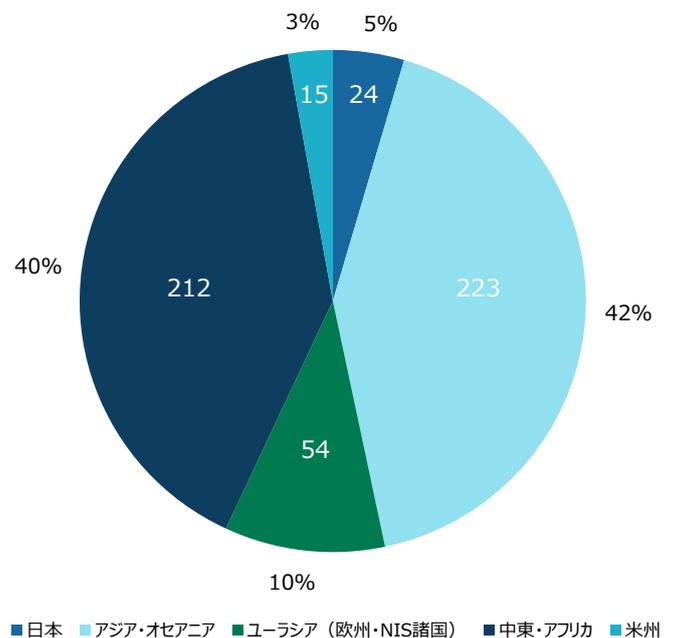
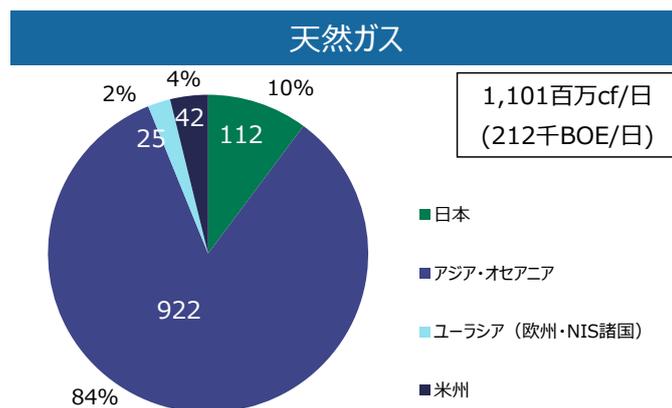
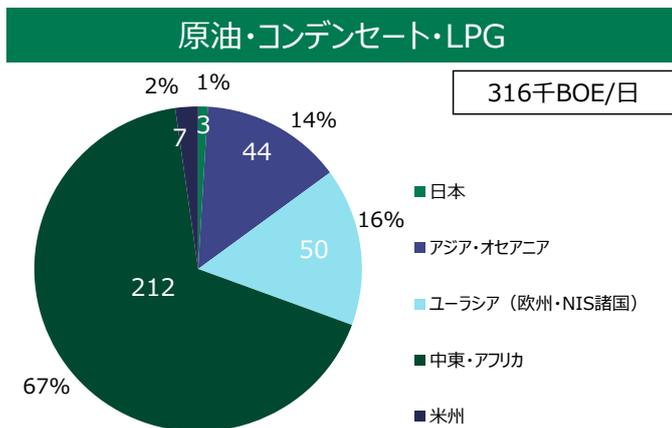
		2021年12月期 (2月10日予想)	2021年12月期 (8月10日予想)	増減	【参考】 第2四半期累計実績
販売量	原油（千bbl）*1	111,732	117,415	5,683	55,454
	天然ガス（百万cf）*2	481,431	473,018	△8,412	203,293
	うち海外分	402,758	392,758	△9,999	160,631
	うち国内分	78,673 (2,108百万m <sup>3</sup> )	80,260 (2,151百万m <sup>3</sup> )	1,587 (43百万m <sup>3</sup> )	42,663 (1,143百万m <sup>3</sup> )
	LPG（千bbl）*3	511	785	274	174

(億円)

開発投資額等*4	2,310	2,350	40	819
探鉱投資額	160	150	△10	28
その他	80	70	△10	27
探鉱費および探鉱関連引当額*5	探鉱費 140	探鉱費 126	△13	探鉱費 22
	探鉱関連引当額 24	探鉱関連引当額 25		探鉱関連引当額 5
うち非支配株主持分負担額*6	68	53	△15	0

- \*1 国内原油および石油製品販売量の換算係数として1kl=6.29bblを使用
- \*2 国内天然ガス販売量の換算係数として1m<sup>3</sup>=37.32cfを使用
- \*3 国内LPG販売量の換算係数として1トン=10.5bblを使用
- \*4 開発投資額にはイクシス下流事業、権益取得支出を含む
- \*5 損益計算書の生産物回収勘定引当金繰入額+探鉱事業引当金繰入額のうち探鉱関連分
- \*6 非支配株主による増資見合い分等

生産量（2021年1月-6月）



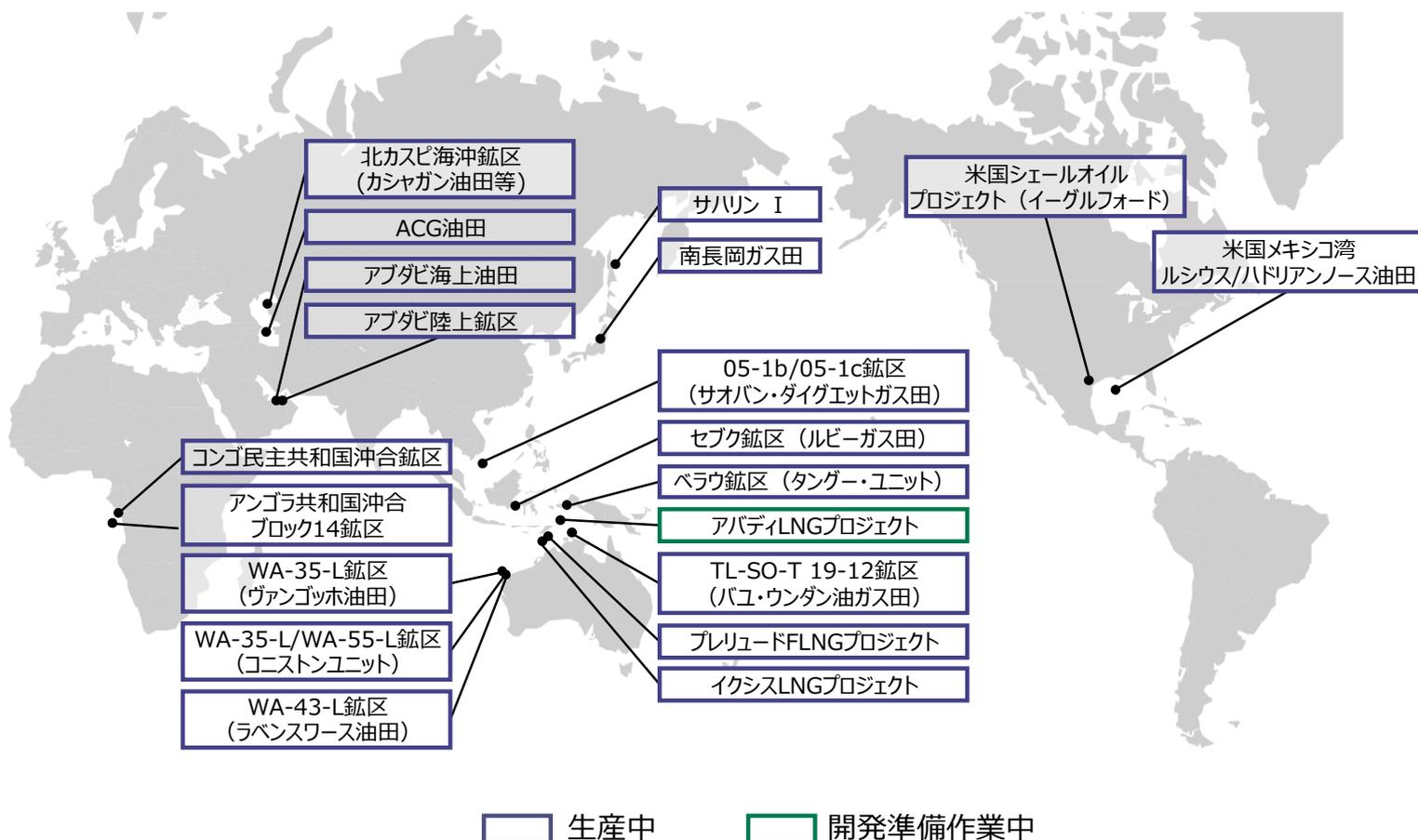
\* 当社グループが締結している生産分与契約にかかる当社グループの生産量は、正味経済的取分に相当する数値を示しています。  
 \* 2021年12月期のネット生産量見通しは、571千BOE/日（期初時点の見通しは559千BOE/日、第1四半期末時点の見通しは570千BOE/日）

## プロジェクト参考データ

INPEX

## 主な生産・開発プロジェクト

INPEX





■ 生産量\*1

- 天然ガス：約2.8百万m<sup>3</sup>/日 (106百万cf/日)
- 原油・コンデンセート：約3千バレル/日

■ 天然ガス販売状況\*2

- 2020年12月期販売量：20.7億m<sup>3</sup>
- 2021年12月期上半期販売量：11.4億m<sup>3</sup>
- 2020年代前半に25億m<sup>3</sup>、長期的に年間30億m<sup>3</sup>の供給見通し

■ グローバルガスバリューチェーンの構築

- 2013年12月、直江津LNG基地の商業運転開始
- 2016年6月、富山ライン完成
- 2018年10月、直江津LNG基地にイクシスLNGプロジェクトの第1船が入船

\*1 2021年4月～6月平均日産量

\*2 1m<sup>3</sup>当たり41.8605MJ換算

セブク鉱区 (ルビーガス田)  
INPEX南マカッサル



■ 当社権益比率：15%

(オペレーター：PEARLOIL (Mubadala))

■ 生産分与契約：2027年9月21日まで

■ 生産量\*1

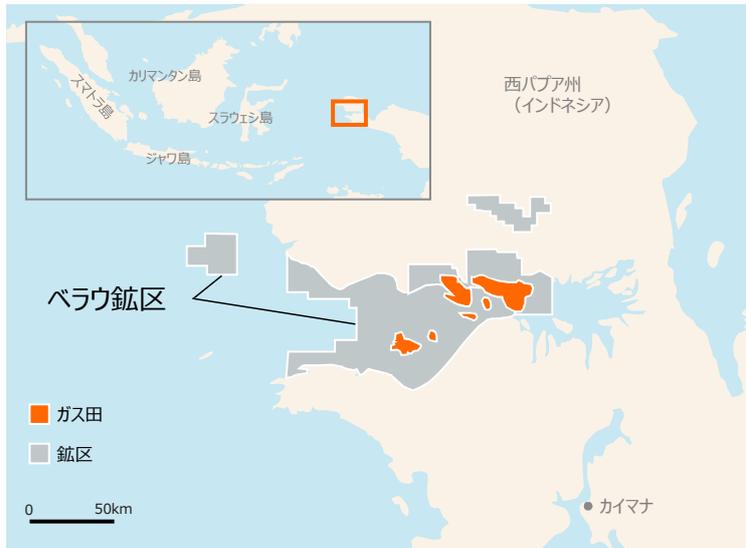
- 天然ガス\*2：日量約96百万立方フィート

■ マイルストーン

- 2010年9月、権益を取得
- 2011年6月、開発移行決定
- 2013年10月、生産開始

\*1 全鉱区ベース、2021年6月平均日産量

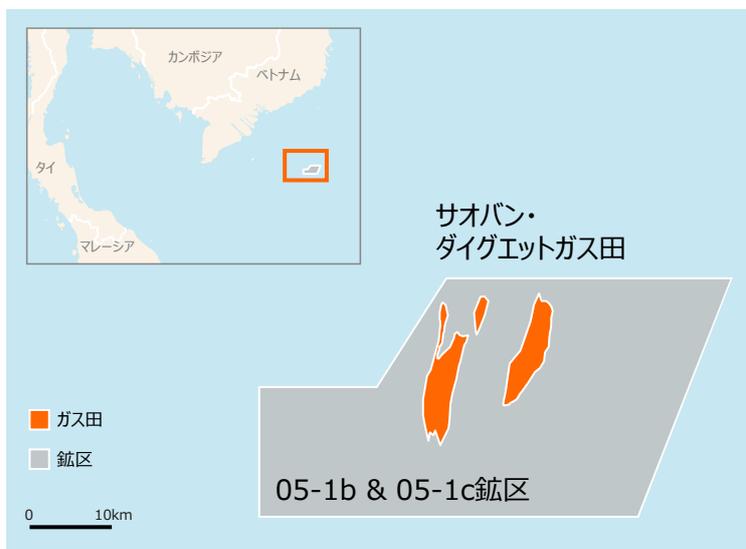
\*2 井戸元の生産量ではなく買主への販売に対応した数量



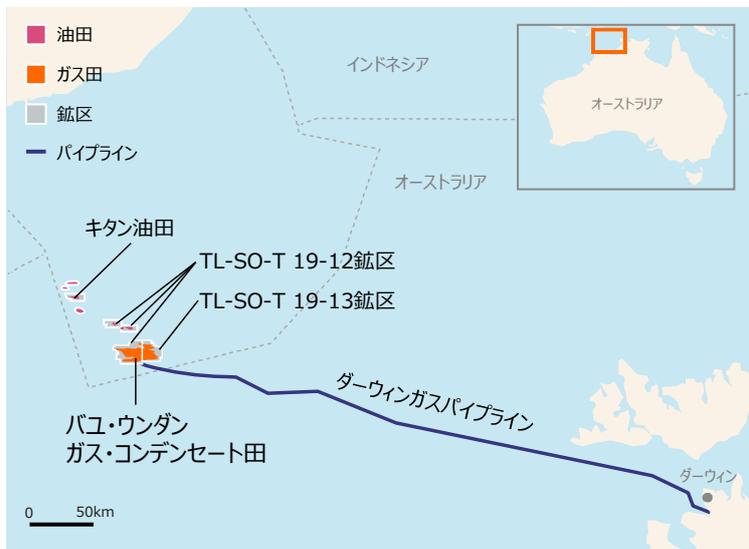
- 当社権益比率：7.79% (ネット)  
(タングーユニット) (オペレーター：BP)
- 生産分与契約：2035年12月31日まで
- 生産量\*1
  - コンデンセート：日量約6千バレル
  - 天然ガス\*2：日量約1,153百万立方フィート
- LNG生産能力：年間760万トン
- マイルストーン
  - 2009年7月、LNG販売開始
  - 2016年7月、拡張プロジェクト (年間380万トンの生産能力を有する第三液化系列を増設) の最終投資決定、現在建設作業中

\*1 全鉱区ベース、2021年6月平均日産量

\*2 井戸元の生産量ではなく買主への販売に対応した数量



- 当社権益比率：36.92%  
(オペレーター：出光ベトナムガス開発)
- 生産分与契約：2034年11月17日まで
- 生産量 (見込み)
  - 天然ガス：年産15億m<sup>3</sup>
  - 原油・コンデンセート：年産280万バレル
- マイルストーン
  - 2011年2月、試掘井掘削の成功
  - 2013年6月、ガス・コンデンセート層を発見
  - 2014年8月、ガス・コンデンセート層を発見
  - 2018年2月、最終投資決定
  - 2020年11月、サオバンガス田からガス販売開始
  - ダイグエットガス田を開発中



一部暫定領海線を含む

\*1 所定の条件が揃えば2022年末まで自動延長される

\*2 全鉱区ベース、2021年6月平均日産量

\*3 井戸元の生産量ではなく買主への販売に対応した数量

■ 当社権益比率: 11.378120%  
(オペレーター: Santos)

■ 生産分与契約: 2022年2月6日まで\*1

■ 生産量\*2

➢ コンデンセート: 日量約8千バレル

➢ LPG: 日量約5千バレル

➢ 天然ガス\*3: 日量約513百万立方フィート

■ マイルストーン

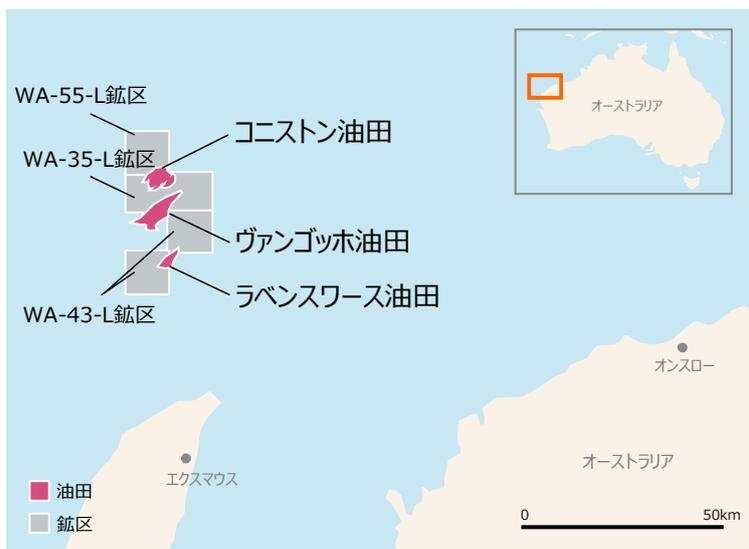
➢ 2004年2月、コンデンセート/LPG販売開始

➢ 2005年8月、東京電力(現JERA)/東京ガスとLNG販売契約締結

➢ 2006年2月、LNG販売開始

➢ 2019年8月に、東チモール・豪州両政府間の海上国境の画定を受け、東チモール政府と新たなPSCを締結。(旧PSCと同等条件での事業継続決定済)

➢ 2021年第2四半期よりインフィル井3坑の追加掘削、2021年第3四半期から順次生産開始



ヴァンゴッホ油田 (WA-35-L) /  
コニストン油田 (WA-35-L及びWA-55-L鉱区)

■ 当社権益比率: 47.499%  
(オペレーター: Santos)

■ 利権契約: 生産終了まで

■ 原油生産量\*: 日量約5千バレル

■ マイルストーン

➢ 2010年2月、ヴァンゴッホ油田にて原油生産開始

➢ 2015年5月、コニストン油田にて原油生産開始

➢ 2016年7月、コニストン油田ノバラ構造にて原油生産開始

➢ 2019年1月、ヴァンゴッホ油田追加開発井から原油生産

➢ 2021年第2四半期よりヴァンゴッホ油田追加開発井3坑の掘削、2021年第3四半期から順次原油生産開始

(2020年3月から2021年3月までFPSOドライドックのため生産を一時停止)

ラベンスワース油田 (WA-43-L鉱区)

■ 当社権益比率: 28.5% (オペレーター: BHP)

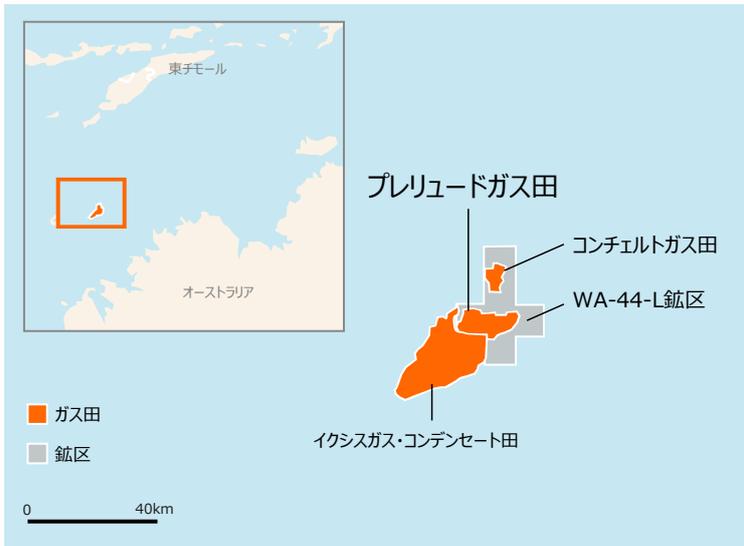
■ 利権契約: 生産終了まで

■ 原油生産量\*: 日量約3千バレル

■ マイルストーン

➢ 2010年8月、生産開始

\* 全鉱区ベース、2021年6月平均日産量



- 権益比率：17.5%（オペレーター：Shell）
- 利権契約：生産終了まで
- 生産能力
  - LNG\*：年間360万トン
  - LPG：年間約40万トン(ピーク時)
  - コンデンセート：年間130万トン（ピーク時）
- マイルストーン
  - 2011年5月、最終投資決定
  - 2018年12月、生産井からのガス生産を開始
  - 2019年3月、コンデンセート出荷開始
  - 2019年6月、LNG出荷開始
  - 2019年7月、LPG出荷開始

（2020年2月よりFLNG船の設備修繕のため生産操業を一時停止していたが、2021年1月に出荷再開）

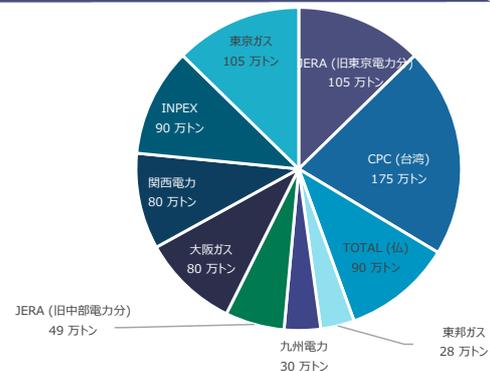
\* 当社権益相当分年間約63万トンのLNGの売買について、JERA（年間約56万トン）、静岡ガス（年間約7万トン）それぞれと合意

## イクシスLNGプロジェクト概要

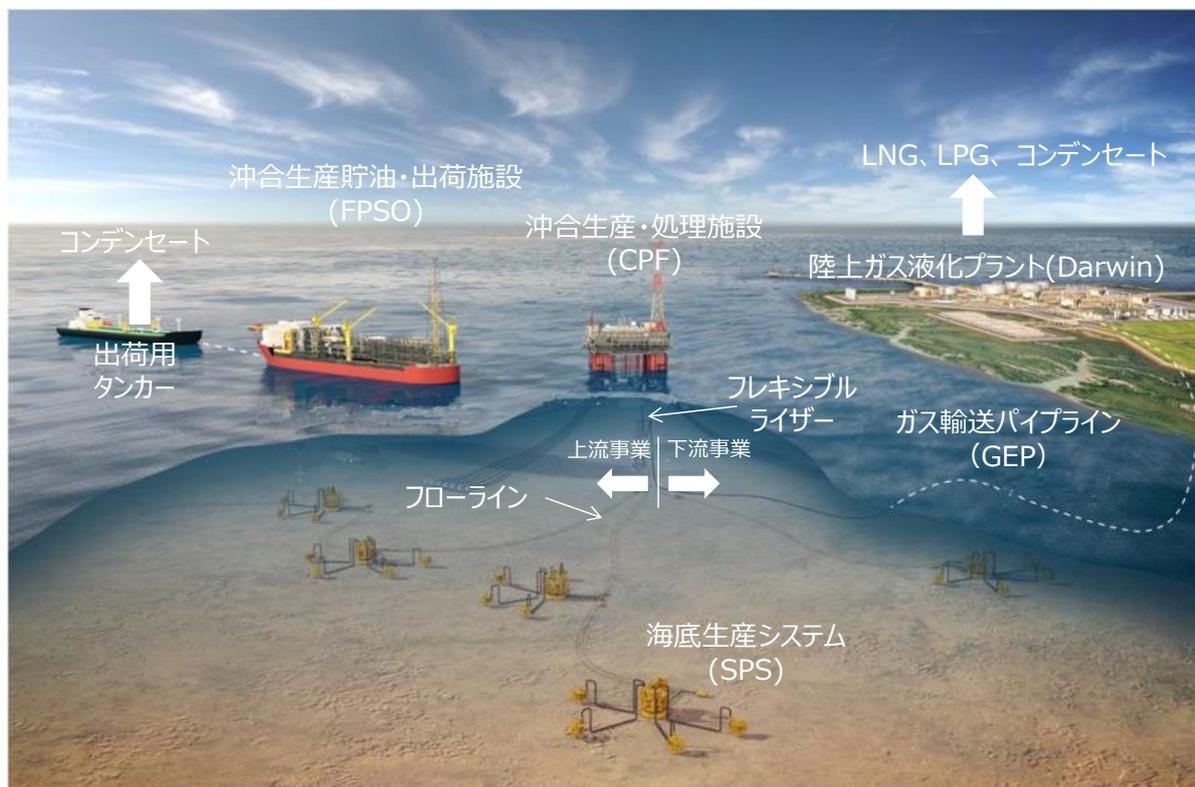
- 当社権益比率：66.245%（オペレーター）
- 生産量\*1
  - 上流ガス\*2：日量約853百万立方フィート
  - 上流コンデンセート：日量約3.6万バレル
- 出荷カーゴ数（生産開始から2021年6月末までの実績）
  - LNG：284（内、2021年1-6月は47）
  - 陸上コンデンセート：51（内、2021年1-6月は9）
  - 海上コンデンセート：80（内、2021年1-6月は13）
  - LPG：76（内、2021年1-6月は13）
- 生産計画
  - プロジェクトライフ：約40年
  - LNG：年間約890万トン（生産能力）
  - LPG 年間約165万トン（生産能力）
  - コンデンセート 日量約10万バレル（ピーク時）
- 確認埋蔵量
  - 約10.11億 BOE(当社権益比率66.245%ベース)
- 複数の周辺鉱区保有、今後のポテンシャル期待
- マーケティング
  - LNG：年産840万トン分売買契約締結済
  - LNGの約7割が日本買主向け
  - LPG：当社権益全量等の売買契約締結済

\*1 2021年4-6月平均日量

\*2 井戸元の生産量ではなく下流事業体への販売に対応した数量（LNG・LPG・プラントコンデンセートの原料として上流から陸上プラントに送られるガス量）



- ファイナンス
  - 2012年12月、総額200億米ドルのプロジェクトファイナンスに係る融資関連契約に調印
  - 2020年6月、約83億米ドルのリファイナンスを実施
- 開発作業時の主要EPC契約
  - 上流事業
    - 沖合生産・処理施設（CPF）：Samsung Heavy Industries（韓）
    - 沖合生産貯油・出荷施設（FPSO）：Daewoo Shipbuilding & Marine Engineering（韓）
    - 海底生産システム（SPS）：GE Oil & Gas（米）
  - 下流事業
    - 陸上LNGプラント：日揮、千代田化工、KBR社（米）の企業連合
    - ガス輸送パイプライン（GEP）：Saipem（伊）、三井物産、住友商事、メタルワン
    - ダーウィン湾内浚渫作業：Van Oord（蘭）
    - 計装・制御システム：横河電機（上流施設も含む）



## イクシスLNGプロジェクト FIDから生産・出荷開始までの軌跡

### ■ 最終投資決定(FID)以降の軌跡

主なマイルストーン	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
<b>FID</b>	●						
(沖合施設・生産井関連)							
●CPF/FPSOの起工式		●					
●CPF/FPSOの本格的な組み立て作業開始			●				
●FPSOの進水			●				
●ガス輸送パイプラインの敷設完了				●			
●生産井の掘削開始				●			
●海底フローラインの敷設完了					●		
●CPF/FPSOの出航・イクシスフィールド到着・係留・接続完了						●	
●CPF/FPSO等の試運転開始						●	
●CPF/FPSO/海底生産システムの生産開始に必要な試運転完了							●
(陸上施設関連)							
●陸上ガス液化プラントの起工式	●						
●陸上ガス液化プラントのモジュール、栈橋、タンク等の建造開始		●					
●ダーウィン湾内の浚渫作業完了			●				
●製品出荷栈橋の完成					●		
●全モジュールの完成・搬入完了					●		
●全製品タンクの水張試験完了						●	
●発電施設稼働開始						●	
●陸上ガス液化プラント第1トレインの生産開始に必要な試運転完了							●
(プロジェクト全般)							
●生産ライセンスの取得、プロジェクト・ファイナンス契約調印	●						
●建造施設への損害保険手配の完了		●					
●LNG輸送に係るLNG船の新規造船・保有及び定期傭船契約の締結		●					
●プロジェクト進捗50%の達成			●				
●LNG生産能力の増大(年産約840万トン⇒約890万トン)				●			
●アストムエネルギー(株)とのLPG販売に関する基本合意						●	
●直江津LNG基地向けLNG船・台湾CPC向けLNG船の命名式						●	
<b>生産井からのガス生産開始</b>							●
<b>コンデンセート出荷開始、LNG出荷開始</b>							●

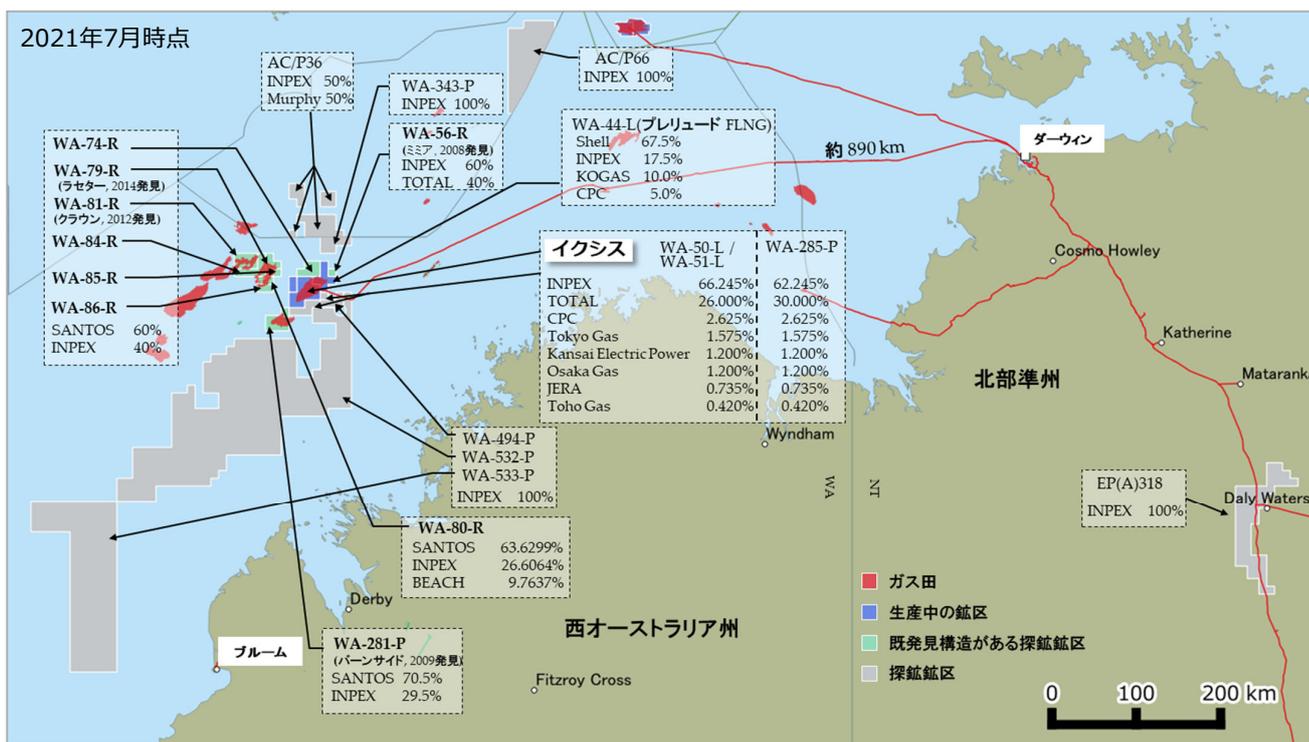




Copyright © 2021 INPEX CORPORATION. All rights reserved.

24

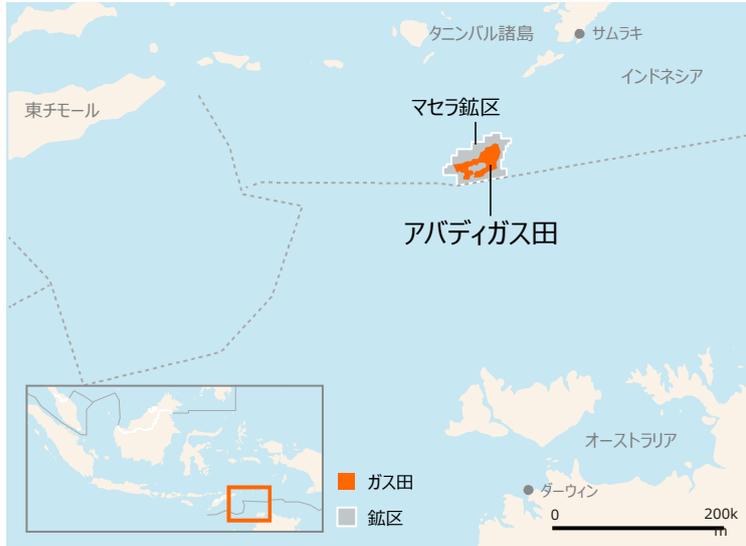
イクシスLNGプロジェクト 周辺探鉱鉦区



- イクシスLNGプロジェクト周辺には17の探鉱鉦区を保有。これまでに、クラウン、ラセター、ミア、バーンサイド等のガス構造を発見し、これらのガス構造は少なくとも9鉦区に亘る
- 従前よりダーウィンに複数の追加トレインが建設可能な用地確保済

Copyright © 2021 INPEX CORPORATION. All rights reserved.

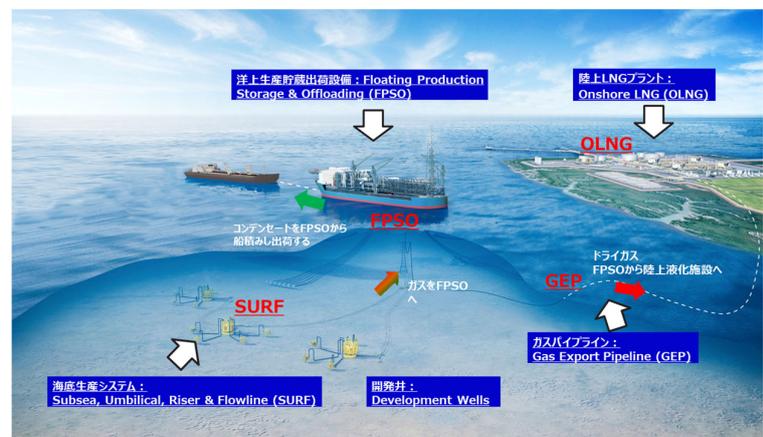
25



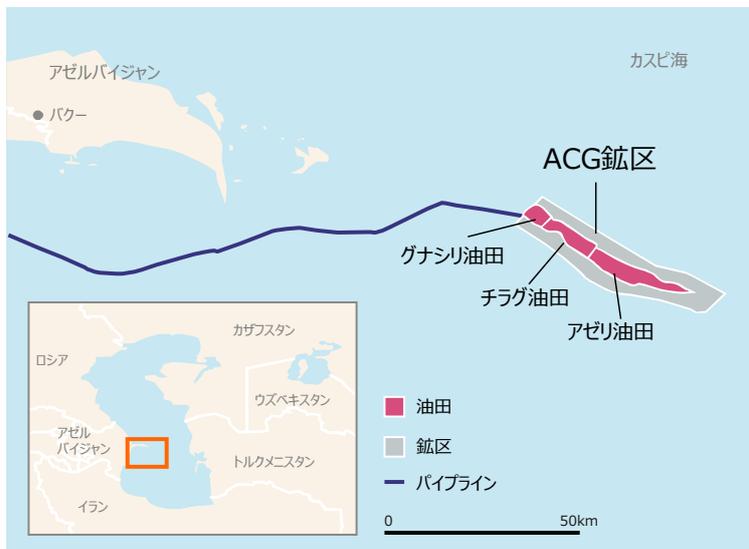
一部暫定領海線を含む

- 当社権益比率：65%（オペレーター）
- 生産分与契約：2055年11月15日まで（2019年10月延長契約等を締結）
- 生産規模
  - 天然ガス総生産量（LNG換算）年産1,050万トン
    - ・ LNG年産950万トン規模
    - ・ 鉱区周辺地域の現地需要向けにパイプラインガス日量1億5千万立方フィート供給を予定
  - コンデンセート日量最大約 3.5万バレル規模
- マイルストーン
  - 2017年6月、インドネシア政府からNational Strategic Projectに、同年9月にはPriority Infrastructure Projectに認定
  - 2019年7月、陸上LNGによる開発を前提とした改定開発計画（POD）についてインドネシア政府当局の承認を取得
  - 2020年2月、インドネシア国営電力会社および国営肥料会社との間で、インドネシア国内向けのLNGおよび天然ガスの長期供給に関する覚書を締結
  - 2020年12月、インドネシア国営ガス会社との間で、インドネシア国内向けのLNGの供給に関する覚書を締結

- 契約期間
  - 1998年11月16日～2055年11月15日
  - 2019年10月、生産分与契約（PSC）の期限を2028年から2055年とする延長契約等を締結
- 十分な経済性を有するプロジェクト
  - 契約期間を2055年まで確保済
  - アバディガス田は世界有数の良好なガス田性状を有し、効率的な生産が可能
  - 年産950万トン規模のLNGおよびパイプラインガスを20年以上にわたって供給可能な埋蔵量を確認済
  - 十分な財務条件（間接税の免除、インベストメントクレジット、税引後利益配分比率の増加といった3つの経済的インセンティブ）を確保済
- 今後の予定
  - 新型コロナウイルス感染拡大の影響によりLNGプラント建設予定地及びその周辺における詳細サーベイ作業を中断中
  - 今後は、CCS/CCUSの導入等、外部環境の変化に対応したプロジェクトの実現方策について検討予定
  - 生産分与契約に基づき10%の参加権益をインドネシア政府の指定するインドネシア企業に譲渡する予定
  - イクシスで獲得した知見・経験を活かした効率的な開発を推進



アバディLNGプロジェクト 開発コンセプト

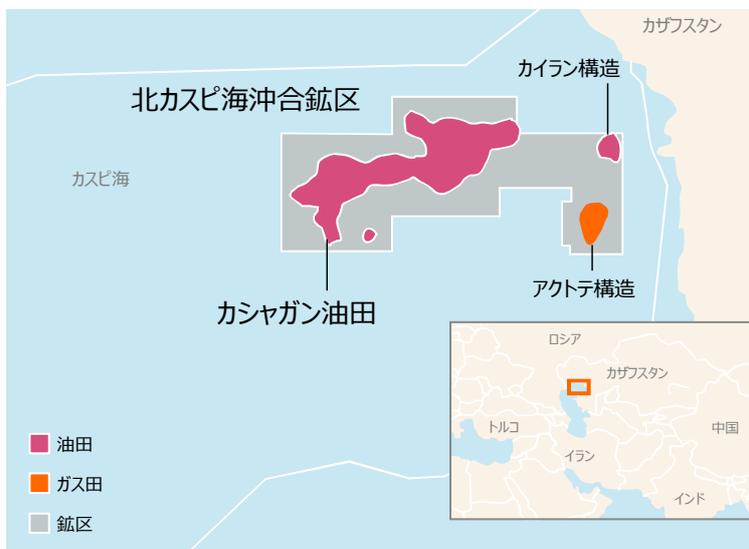


- 当社権益比率：9.3072%\*1  
(オペレーター：BP)
- 生産分与契約：2049年まで\*2
- 原油生産量\*3：平均日量48.4万バレル
- マイルストーン
  - 1997年、チラグ油田生産開始
  - 2005年2月、アゼリ油田中央部生産開始
  - 2005年12月、アゼリ油田西部生産開始
  - 2006年10月、アゼリ油田東部生産開始
  - 2008年4月、グナシリ油田深海部生産開始
  - 2014年1月、チラグ油田西部生産開始
  - 2019年4月、アゼリ油田中東部新規生産プラットフォーム建設決定

\*1 生産分与契約延長に伴い、当社権益比率は9.3072%へ変更。延長PS契約は2018年1月1日発効

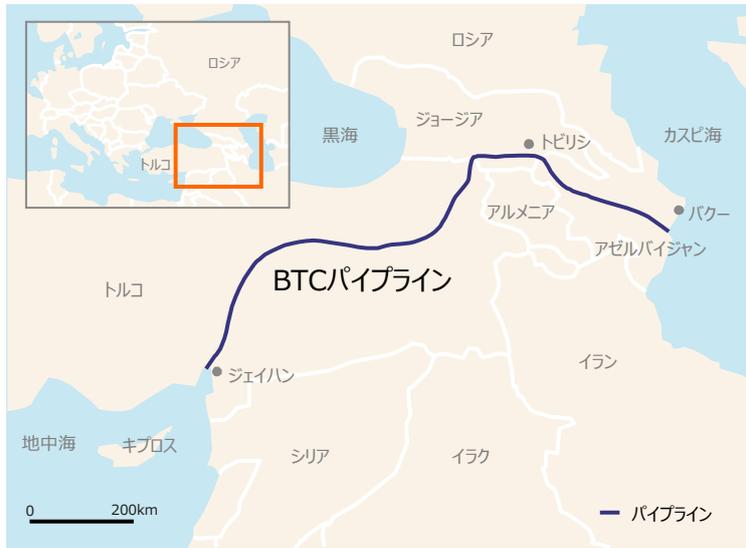
\*2 2017年に、PS契約の2049年未までの延長が合意された

\*3 全鉱区ベース、2021年1月～3月の平均日産量



- 当社権益比率：7.56% (オペレーター：NCOC, North Caspian Operating Company)
- 生産分与契約：2031年末まで (カシャガン油田)\*
- マイルストーン
  - 2016年10月、原油出荷を開始
  - 生産日量37万バレル達成済。生産日量45万バレルを目指し作業中
  - アクトテ/カイランの2構造の評価期間を5年間延長して開発シナリオ検討を継続することについて、カザフスタン政府と合意

\* 現行のPSA条件にて10年×2回の延長（2041年まで）が可能



- 当社権益比率：2.5%  
(オペレーター：BP)
- 通油量：日量約57万バレル\*
- マイルストーン
  - 2002年10月、当社、参加権益2.5%取得
  - 2006年6月、ジェイハンターミナルから原油出荷開始
  - 2009年3月、輸送能力日量120万バレルまでの拡張作業を完了
  - 2010年9月13日、累計10億バレル出荷を達成
  - 2014年8月11日、累計20億バレル出荷を達成
  - 2018年7月17日、累計30億バレル出荷を達成

\* 2021年1-3月平均通油量

サハリン-1  
サハリン石油ガス開発



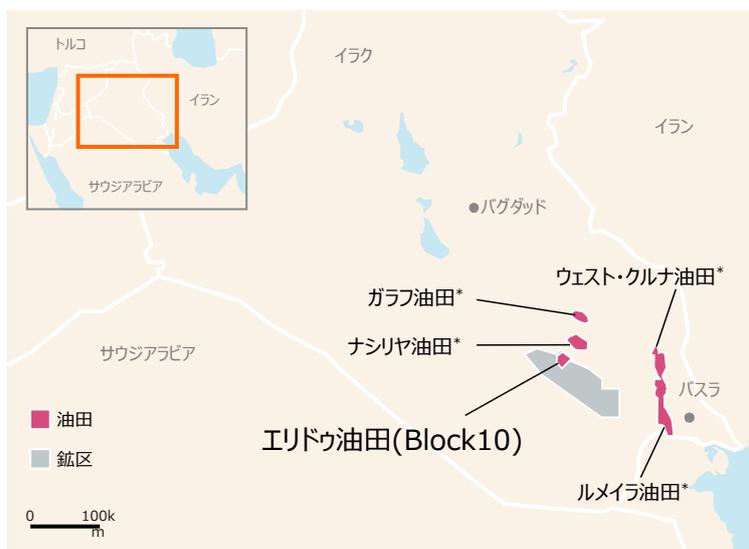
- サハリン石油ガス開発（SODECO）のサハリン-1における権益比率：30%
- 当社のSODECO株式持株比率：約6.08%
- オペレーター：Exxon Neftegas Limited
- マイルストーン
  - 2005年10月、チャイウォより生産開始、2006年10月原油輸出開始
  - 2010年9月、オドプトより生産開始
  - 2015年1月、アルクトン・ダギより生産開始
  - 天然ガスをロシア国内に供給中



- 日本南サハ石油（JASSOC）の東シベリアINKプロジェクトにおける株式保有比率：49.0%（INK ZAPAD社への出資）
- 当社のJASSOC株式持株比率：約24.998%
- オペレーター：INK ZAPAD社
- ライセンス契約：25年間(2031年まで)
- 原油生産量\*：日量約5.4万バレル
- マイルストーン
  - 2014年11月、イチョディンスコエ油田より生産開始

\* 全鉱区ベース、2021年6月平均日産量

イラク共和国ブロック10鉱区（エリドゥ油田）  
INPEX南イラク石油



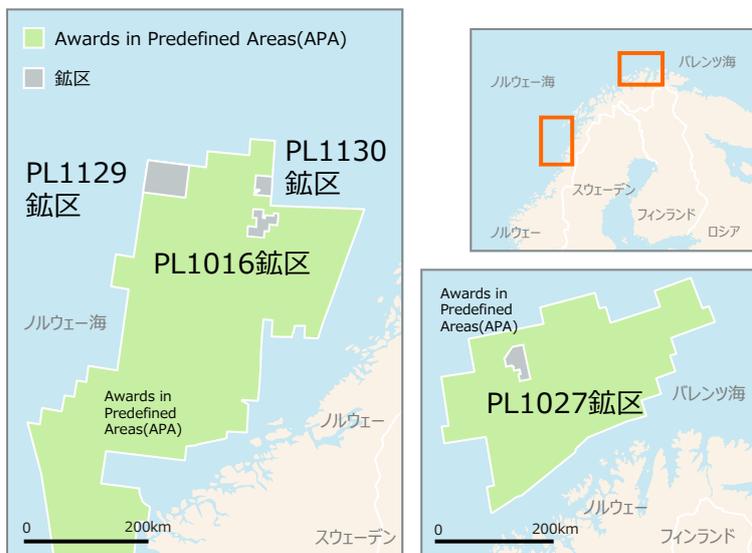
- 当社権益比率：40%  
（オペレーター：Lukoil）
- 鉱区取得：2012年12月  
（イラク共和国第4次公開入札にて）
- EDPSC\*1
  - 探鉱期間：9年間\*2（2021年12月2日まで）
  - 開發生産期間：20年間\*3
- マイルストーン
  - 2017年2月、試掘第1号井において油層を発見。その後、評価井を掘削し、油層の広がりを確認。
  - 油層が鉱区外へ伸長していると予測されたため、鉱区エリアの拡張申請を提出し、2017年11月に承認。
  - 商業開発の可能性を検討するため、探鉱および評価作業を実施中。

\* 当社が権益を保有しない鉱区

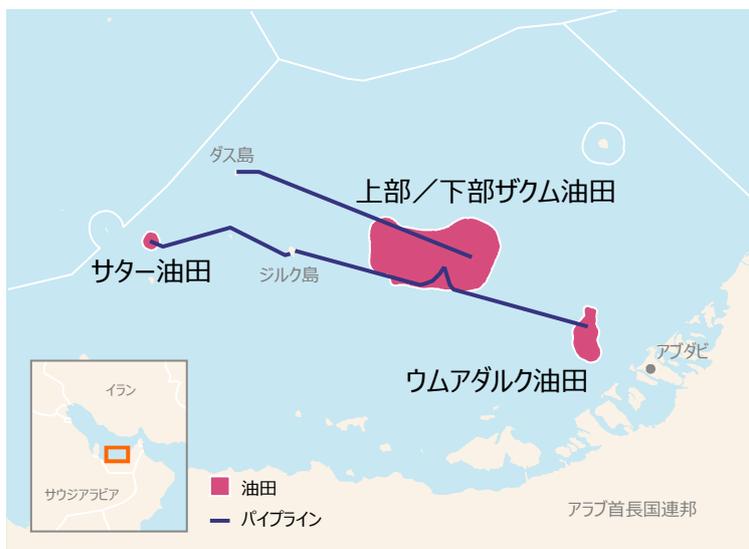
\*1 探鉱、開発、生産サービス契約

\*2 更なる探鉱・評価作業を実施するため、EDPSCに基づき探鉱期間を4年間延長。

\*3 開発・生産期間は5年間の延長が可能。

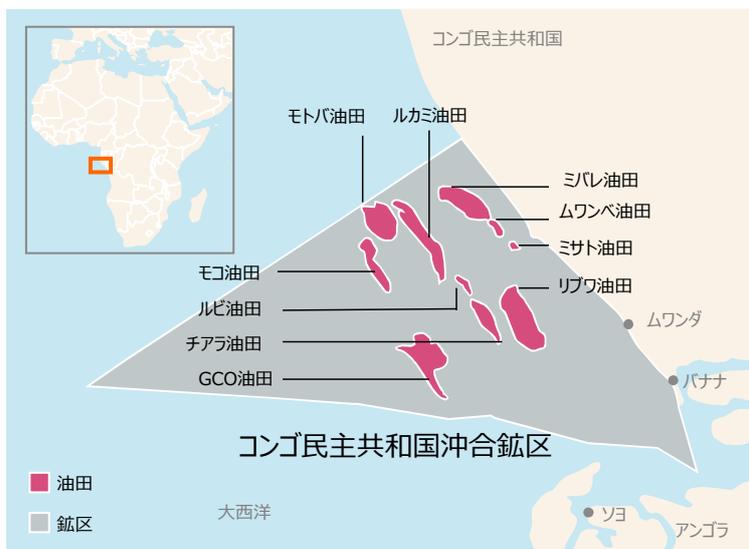


- ノルウェー海北部PL 1016鉱区
  - 当社権益比率：40%  
(オペレーター：OMV Norge AS)
  - 鉱区取得：2019年3月1日
  - コンセッション契約：
    - ・ 探鉱・評価期間7年間（2026年まで）
    - ・ 開発生産期間25年間
  - 2018APAラウンドにおいて単独入札し、2019年1月に落札
  - 3D震探処理後、DoD (Drill or Drop)に向け解釈作業を実施中。
- バレンツ海西部PL 1027鉱区
  - 当社権益比率：20%  
(オペレーター：Lundin Norway AS)
  - 鉱区取得：2019年3月1日
  - コンセッション契約：
    - ・ 探鉱・評価期間8年間（2027年まで）
    - ・ 開発生産期間25年間
  - 2018APAラウンドにおいて単独入札し、2019年1月に落札
  - 試掘井7221/4-1掘削
  - ポストドリル評価実施中
- ノルウェー海北西部PL 1129鉱区
  - 当社権益比率：30%  
(オペレーター：Wintershall Dea Norge)
  - 鉱区取得：2021年1月19日
  - 2020APAラウンドにおいて共同応札
- ノルウェー海西部PL 1130鉱区
  - 当社権益比率：60% (オペレーター)
  - 鉱区取得：2021年1月19日
  - 2020APAラウンドにおいて共同応札



- 上部ザクム油田(JODCO)
  - 当社権益比率：12%  
(オペレーター：ADNOC Offshore)
  - 利権契約：2051年まで
- 下部ザクム油田 (JODCO Lower Zakum Limited)
  - 当社権益比率：10%  
(オペレーター：ADNOC Offshore)
  - 利権契約：2058年まで
- サター油田・ウムアダルク油田(JODCO)
  - 当社権益比率：40%  
(オペレーター：ADNOC Offshore)
  - 利権契約：2043年まで





- 当社権益比率：32.28%  
(オペレーター：Perenco)
- コンセッション契約（1969～2043年）
- 生産開始：1975年
- 生産量\*：日量約1.5万バレル

\* 全鉱区ベース、2021年6月平均日産量



- 当社権益比率:9.998%  
(オペレーター：Chevron)
- 生産分与契約
  - TL DA: 2028年まで  
(Kuito DAとBBLT DAはTL DAに統合)
  - Lianzi: 2031年まで
- 生産量\*：日量約5.4万バレル

\* 全鉱区ベース、2021年6月平均日産量



- 米国メキシコ湾ルシウス油田 / ハドリアンノース油田 (INPEX Americas, Inc.)
  - リース契約
  - 当社権益比率：10.10769% (オペレーター：Occidental)
  - 生産量\*1
    - 原油：日量約4.1万バレル
    - 天然ガス\*2：日量35百万立方フィート
  - マイルストーン
    - 2015年1月、原油及び天然ガスの生産開始
    - 2017年9月、ルシウス油田とルシウス油田の南側に位置するハドリアンノース油田のプロジェクトパートナーはユニタイズーションに係る改定UPA (Unit Participating Agreement)を締結
    - 2019年4月 ハドリアンノース油田より生産開始
    - 2019年6月 バックスキン油田からのルシウス油田の生産設備へのタインによる生産を開始
    - 2021年2月 ExxonMobil社保有権益の一部を追加取得
- メキシコ領メキシコ湾北部海域R1.4 ブロック3(ペルディド) (INPEX E&P Mexico PB-03, S.A. de C.V.)
  - ライセンス契約 (探鉱中)
  - 当社権益比率：33.3333% (オペレーター：Chevron)
- メキシコ領メキシコ湾南部海域R2.4 ブロック22(サリナ) (INPEX E&P Mexico, S.A. de C.V.)
  - ライセンス契約 (探鉱中)
  - 当社権益比率：35% (オペレーター：Chevron)

\*1 全鉱区ベース、2021年6月平均日産量

\*2 井戸元の生産量ではなく買主への販売に対応した数量

米国シェールオイルプロジェクト  
INPEX Eagle Ford, LLC



- 当社権益比率：100% (オペレーター\*1)
- リース契約
- リース権：約9,000ネットエーカー (約36平方キロメートル)
- 生産量\*2：
  - 原油：日量約0.3万バレル
  - 天然ガス：日量約5百万立方フィート
- マイルストーン
  - 2019年4月、GulfTex Energy社が米国テキサス州イーグルフォードシェールにおいて保有・操業するシェールオイル開発・生産権益を取得。
  - 2020年1月、GulfTex社からのオペレーション業務移管完了。



掘削作業現場

\*1 一部を除き、当社がオペレーター

\*2 当社権益分のネット生産量、2021年6月平均日産量

## ■ 主要会社一覧及び石油契約\*1

会社名	鉱区名またはプロジェクト名	国名	石油契約	出資比率	フェーズ
<b>日本</b>					
INPEX	南長岡ガス田ほか*2	日本	コンセッション	-	生産中
<b>アジア/オセアニア</b>					
INPEX南マカッサル	セブク鉱区 (ルビーガス田)	インドネシア	PS	100%	生産中
MI Berau B.V.	ベラウ鉱区(タンゲー-LNG)	インドネシア	PS	44%	生産・開発作業中
INPEXマセラ	マセラ鉱区 (アバディLNG) *2	インドネシア	PS	51.9%	開発準備作業中
INPEXコンソン	05-1b / 05-1c鉱区 (サオバン・ダイグエット ガス田)	ベトナム	PS	100%	生産・開発作業中
INPEXサウル石油	バユ・ウンダン	東チモール民主共和国	PS	100%	生産中
INPEX Browse E&P Pty Ltd	WA-285-P*2他	オーストラリア	コンセッション	100%	探鉱作業中
INPEX Ichthys Pty Ltd	WA-50-L及びWA-51-L (イクシス) *2	オーストラリア	コンセッション	100%	生産中
Ichthys LNG Pty Ltd	イクシスプロジェクト下流事業*2	オーストラリア	-	66.245%	生産中
INPEX Oil & Gas Australia Pty Ltd	プレリウドFLNGプロジェクト	オーストラリア	コンセッション	100%	生産中
INPEXアルファ石油	ヴァンゴッホ油田/コニストンユニット	オーストラリア	コンセッション	100%	生産中
INPEXアルファ石油	ラベンスワース油田	オーストラリア	コンセッション	100%	生産中

\*1 2021年6月末時点  
\*2 オペレータープロジェクト

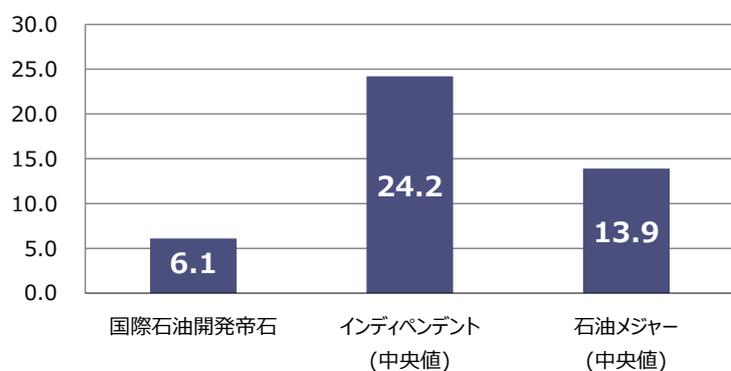
## ■ 主要会社一覧及び石油契約\*1

会社名	鉱区名またはプロジェクト名	国名	石油契約	出資比率	フェーズ
<b>ユーラシア</b>					
INPEX南西カスピ海石油	ACG油田	アゼルバイジャン	PS	51%	生産中
INPEX北カスピ海石油	カシャガン油田	カザフスタン	PS	51%	生産中
<b>中東/アフリカ</b>					
ジャパン石油開発	上部ザクム油田等	アラブ首長国連邦	コンセッション	100%	生産中
JODCO Lower Zakum Limited	下部ザクム油田	アラブ首長国連邦	コンセッション	100%	生産中
JODCO Onshore Limited	陸上鉱区	アラブ首長国連邦	コンセッション	51%	生産中
帝石コンゴ石油	コンゴ民主共和国沖合鉱区	コンゴ民主共和国	コンセッション	100%	生産中
INPEX Angola Block14	アンゴラ共和国沖合ブロック14鉱区	アンゴラ共和国	PS	100%	生産中
<b>米州</b>					
INPEX Americas, Inc.	ルシウス油田/ハドリアンノース油田	米国	コンセッション	100%	生産中
INPEX Eagle Ford, LLC	イーグルフォードシェールオイル*2	米国	コンセッション	100%*2	生産中

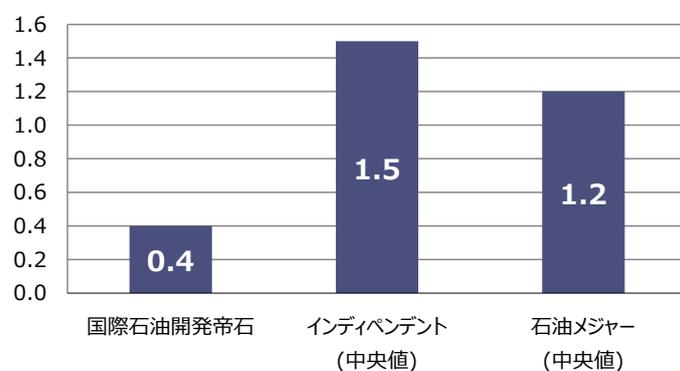
\*1 2021年6月末時点  
\*2 一部を除き、当社がオペレーター

当社Valuation指標

EV／確認埋蔵量<sup>\*1</sup>

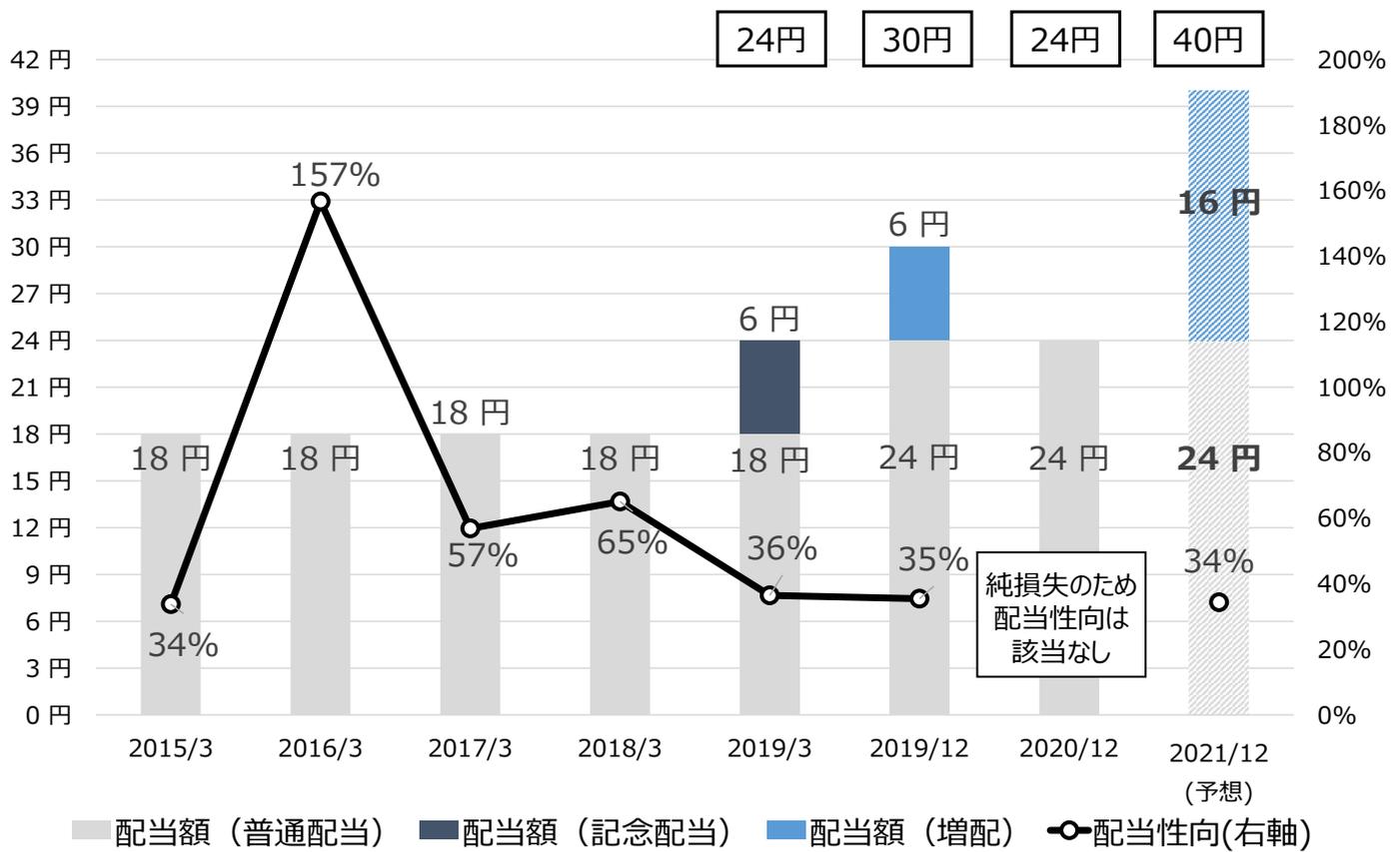


PBR<sup>\*2</sup>



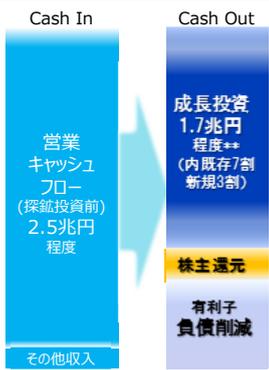
\*1 EV（企業総価値）／確認埋蔵量 = （時価総額 + 総有利子負債 - 預金及び現金同等物 + 少数株主持分）／確認埋蔵量。時価総額は2021年6月30日時点。財務数値は2021年3月末時点（但し、一部2020年12月末時点）。確認埋蔵量は、2020年12月末時点。財務数値、確認埋蔵量は各社開示資料より。

\*2 PBR = 株価／一株当たり純資産。時価総額は2021年6月30日時点。財務数値は2021年3月末時点（但し、一部2020年12月末時点）。財務数値は各社開示資料より。



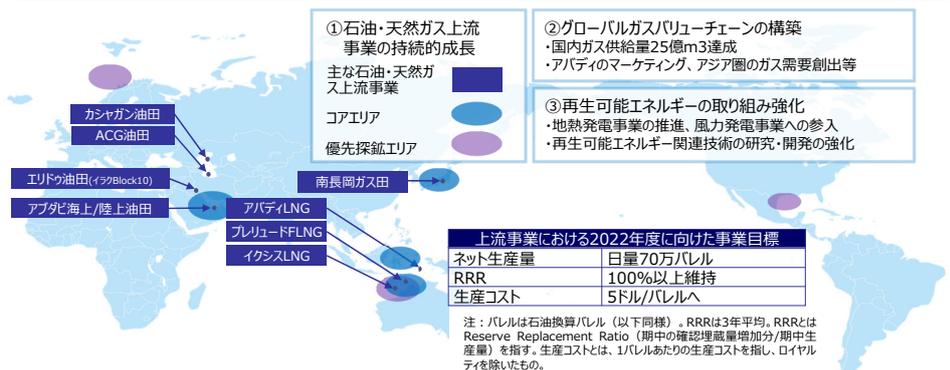
中期経営計画 2018-2022

5年間の資金配分\*



注: \*原油価格60ドル、為替110円前提、イクス下流会社含む  
\*\*「事業の主な取り組み」の①～③に係る全ての支出

事業の主な取り組み



株主還元の強化

- ✓ 2018年度: イクスLNGプロジェクトの生産及び出荷後、記念配当実施の方針
- ✓ 中計期間中、以下の還元方針
  - 1株18円 + 上記記念配当の合計額を下回らないよう安定的に配当
  - 業績の成長に応じて段階的に一株当たり配当金を引き上げ
  - 配当性向30%以上



経営目標

	2022年度	2017年度実績
原油価格・為替前提	60ドル・110円	57.85ドル・110.86円
売上高	1兆3,000億円程度	9,337億円
親会社株主に帰属する当期純利益	1,500億円程度	403億円
営業キャッシュフロー	4,500億円程度	2,785億円
株主資本利益率(ROE)	5%以上	1.4%

- ✓ 財務健全性を維持 (自己資本比率50%以上を目標)
- ✓ 油価50ドル/バレル継続時も安定した事業運営が可能な体制を維持

注: 原油価格はブレント原油1バレル、為替前提は1米ドルあたりの数値。各指標は制度会計ベース。原油価格・為替レートはセンシティブ性は、2022年度の連結親会社株主に帰属する当期純利益に対し、油価1ドル/バレル上昇 (下落) +80億円 (△80億円) 程度、為替1円/米ドル円安 (円高) +20億円 (△20億円) 程度の試算。その他の留意事項は「中期経営計画 2018-2022」(URL: [https://www.inpex.co.jp/company/pdf/business\\_plan.pdf](https://www.inpex.co.jp/company/pdf/business_plan.pdf))のP.5をご覧ください。

【経営の基本方針】

当社は、今後も増加する我が国及び世界のエネルギー需要に応え、長期にわたり引き続き、エネルギー開発・安定供給の責任を果たしつつ、2050年ネットゼロカーボン社会の実現に向けたエネルギー構造の変革に積極的に取り組みます。

1. エネルギーの安定供給

- ▶ 上流事業を引き続き基盤事業と位置づけ、事業の強靱化とクリーン化を進めることにより、エネルギーの安定供給と気候変動への責任ある対応という二つの社会的責任を果たしてまいります。
- ▶ 天然ガスシフトを進め、国内及び成長市場であるアジアにおけるグローバルガスバリューチェーンの拡大に向けた取組を継続・強化します。  
さらに、カーボンニュートラルLNGの販売等を推進します。

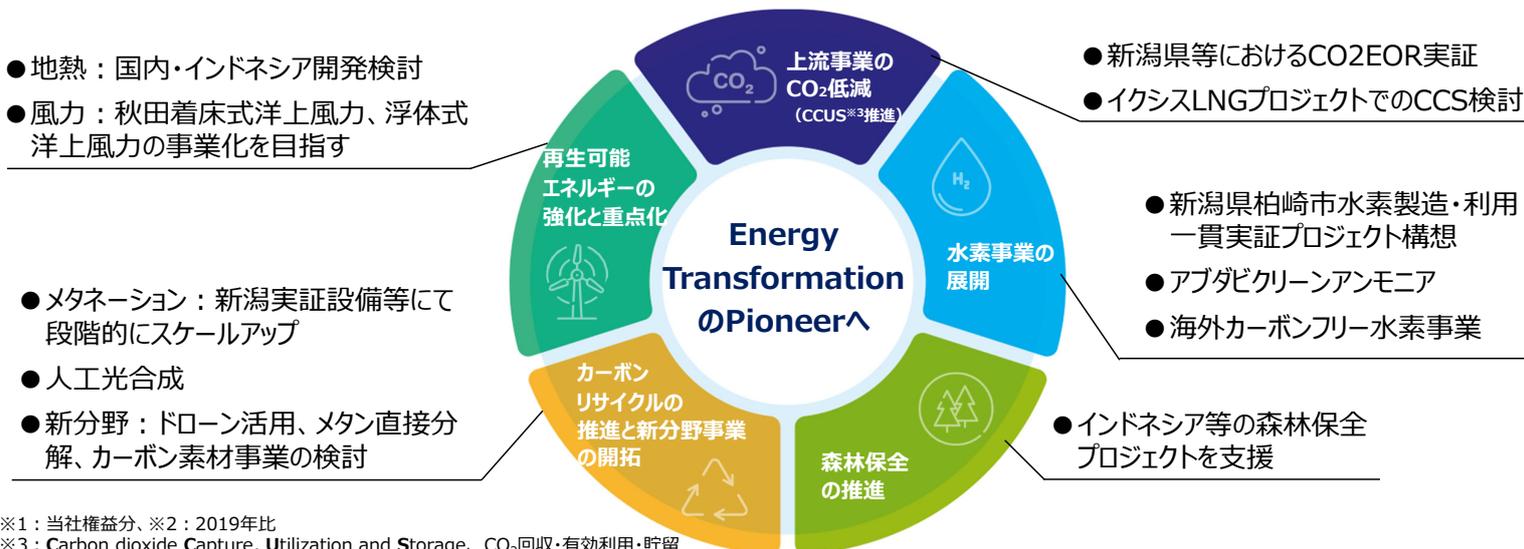


2. ネットゼロカーボン社会に向けた目標と取組

- ▶ 気候変動に関するパリ協定目標の実現に貢献すべく、気候変動対応目標を定めます。



- ▶ 社会のニーズに応えるソリューションを提案すべく、5つの事業の柱を強力に推進します。



※1：当社権益分、※2：2019年比  
※3：Carbon dioxide Capture, Utilization and Storage、CO<sub>2</sub>回収・有効利用・貯留

■ 6つのCSR重点テーマを中心に、事業を通じてESG各分野で責任ある企業としての取組みを推進

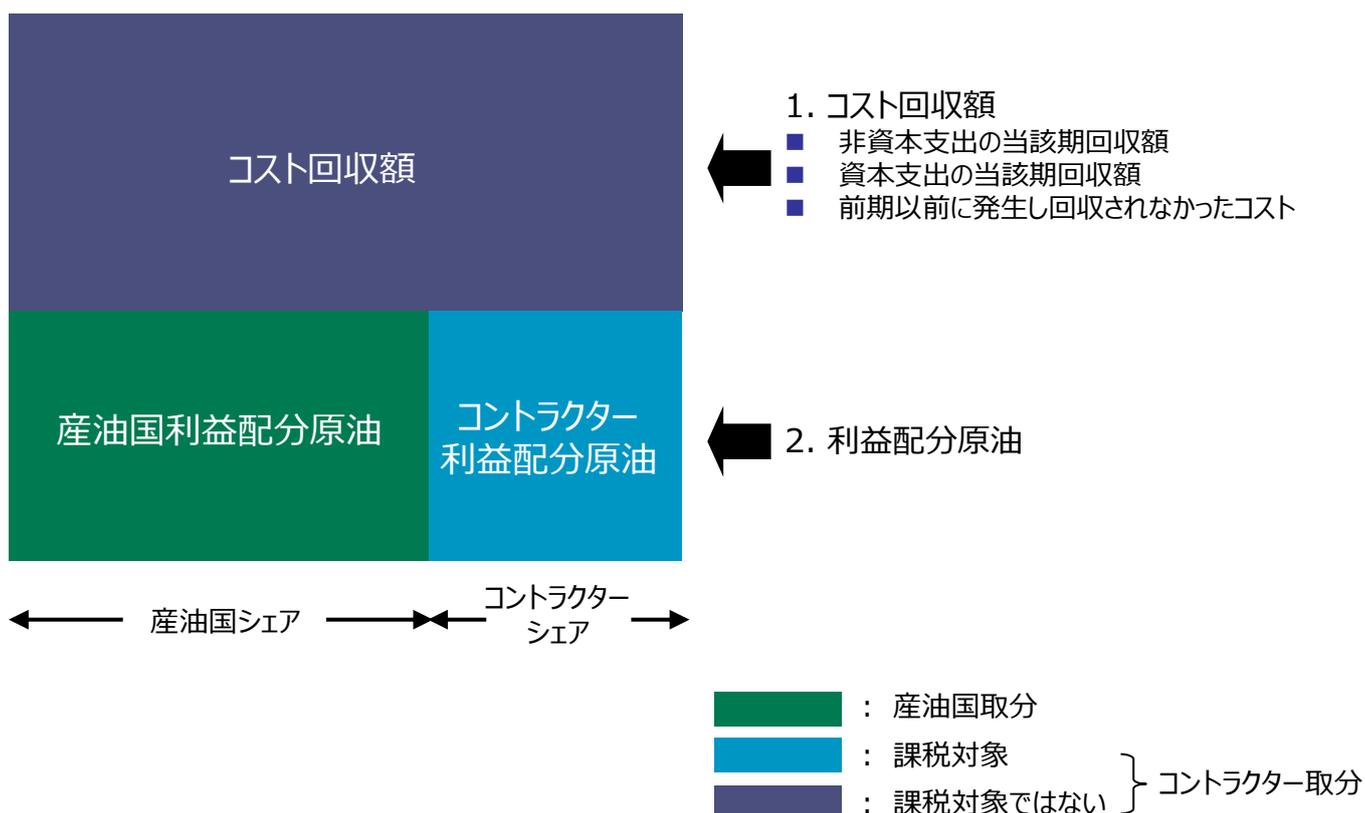


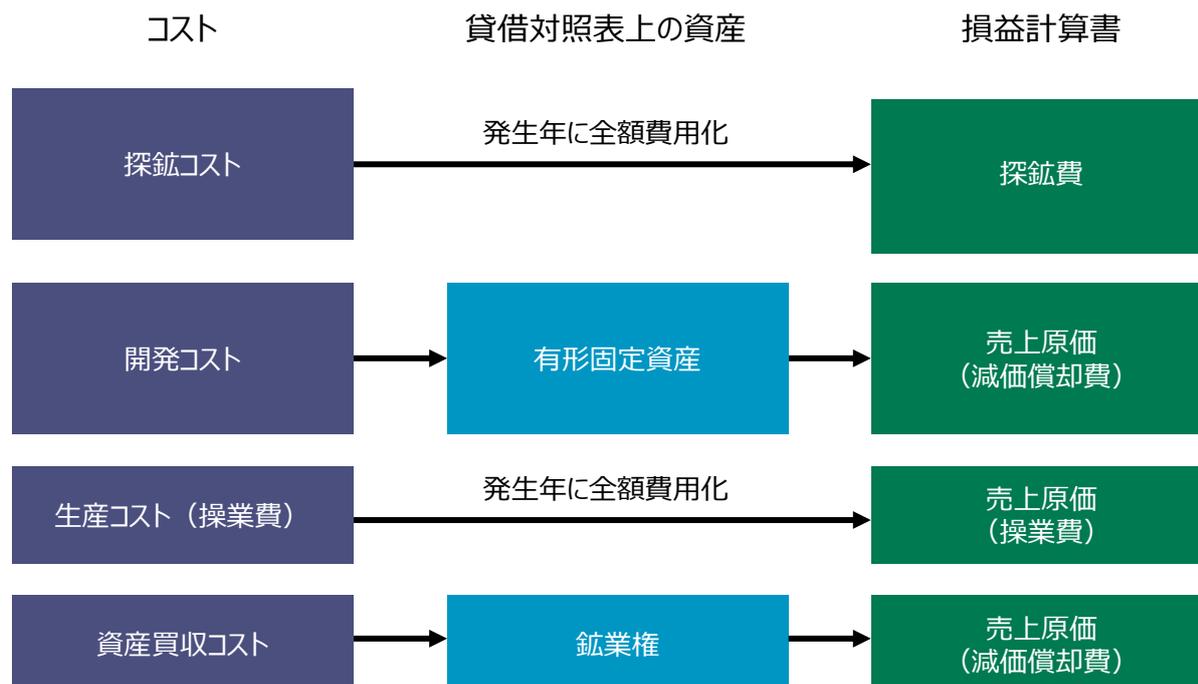
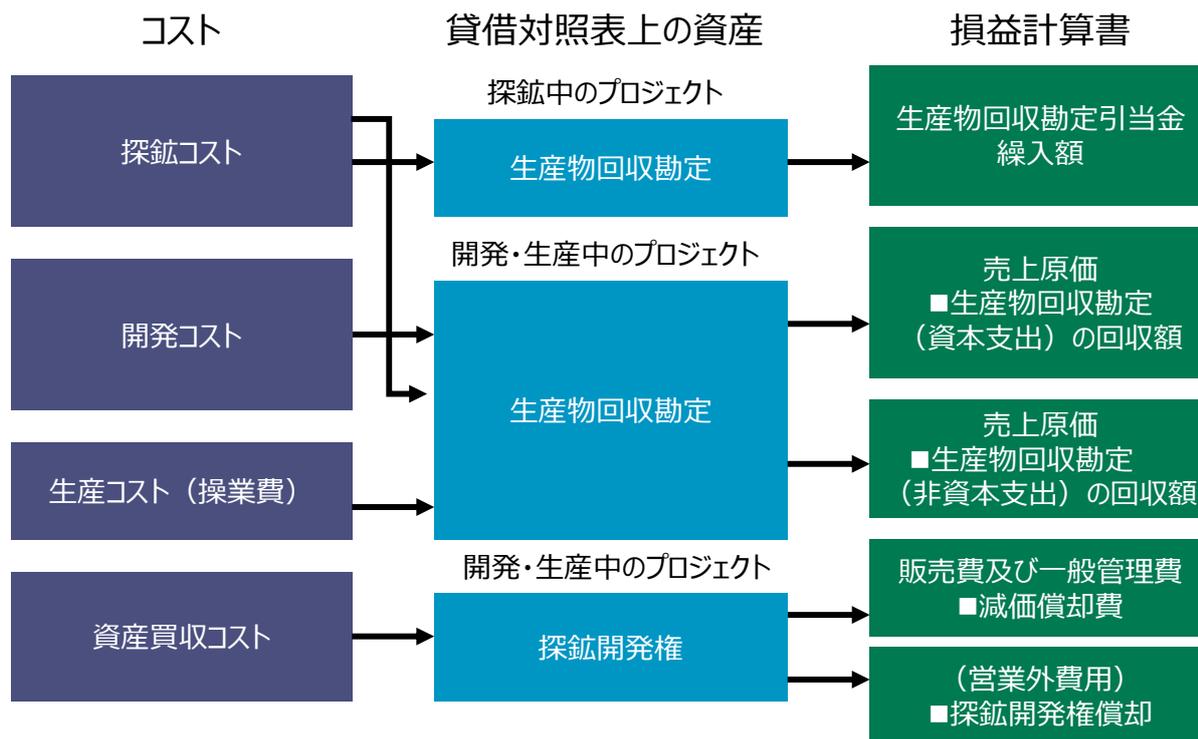
■ 主要ESGインデックスへの組入れ状況ならびに社外評価

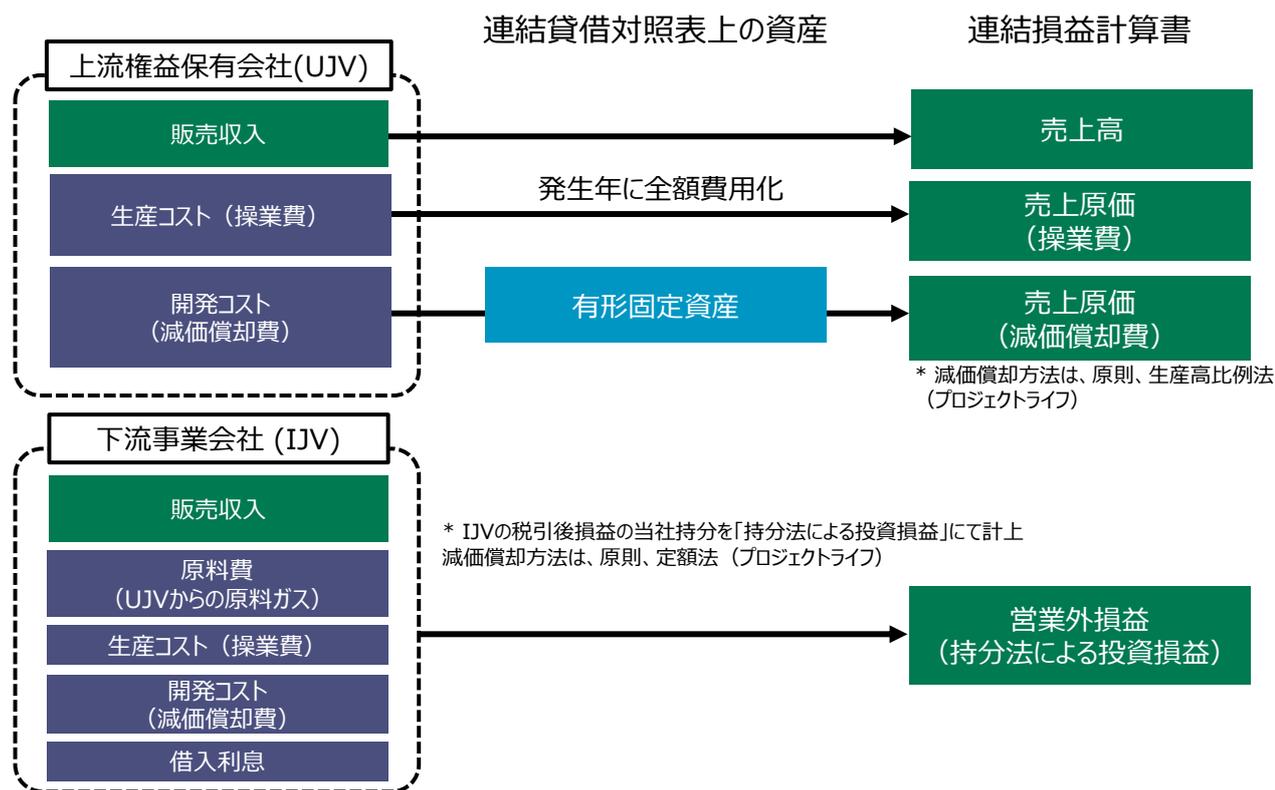
➢ 主要なESG評価機関より高い評価を獲得、国内外のESG投資インデックスの構成銘柄に選定

<p>FTSE 4Good Developed Index FTSE 4Good Japan Index FTSE Blossom Japan Index</p> <p>FTSE4Good FTSE Blossom Japan</p>	<p>MSCI ESG Leaders Indexes MSCIジャパンESGセレクト・リーダーズ指数 MSCI日本株女性活躍指数（WIN）</p> <p>2021 CONSTITUENT MSCIジャパン ESGセレクト・リーダーズ指数 2021 CONSTITUENT MSCI日本株女性活躍指数 (WIN)</p>	<p>S&amp;P/JPXカーボン・エフィシエント指数</p>
<p>SOMPOサステナビリティ・インデックス 2021</p> <p>Sompo Sustainability Index</p>	<p>CDP2020「気候変動」スコア：A-</p>	<p>S&amp;P Sustainability Yearbook Member</p> <p><b>Sustainability Award</b> Industry Mover 2021</p> <p><b>S&amp;P Global</b></p>

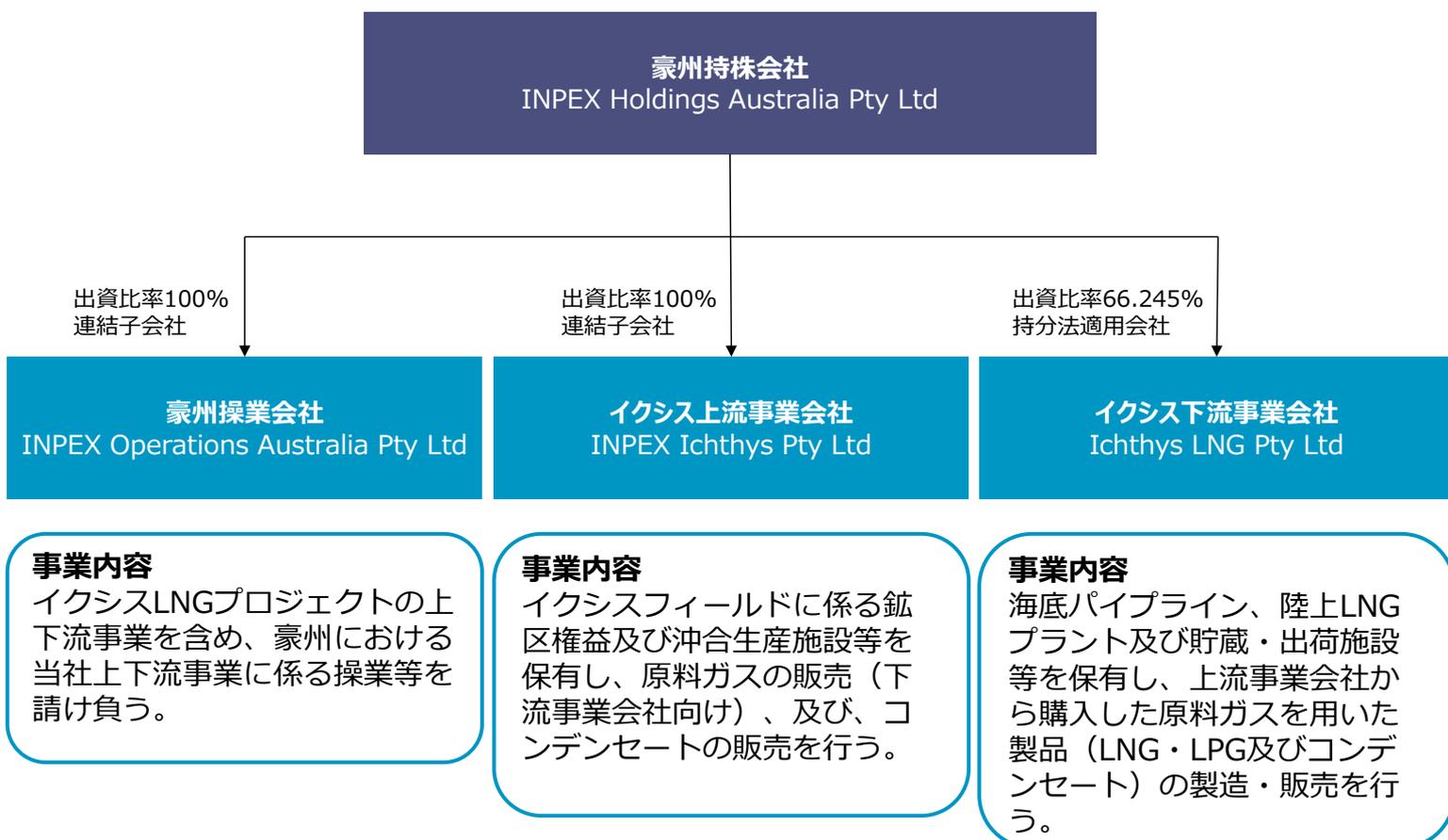
生産分与契約





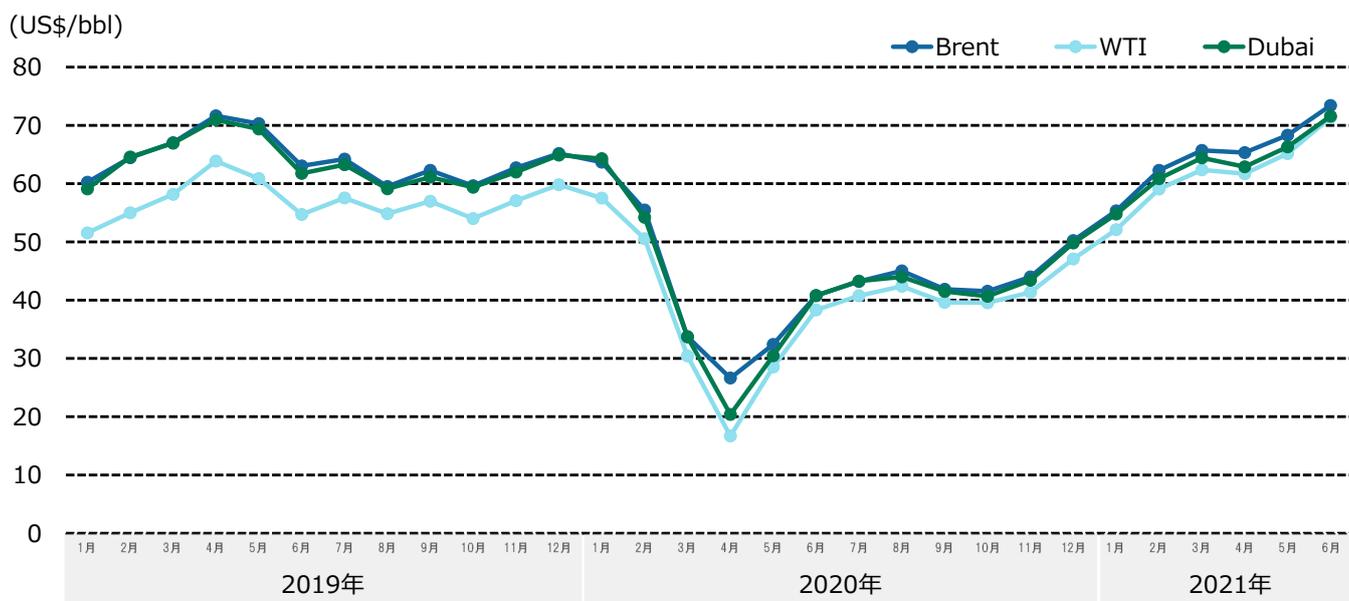


\* 下流会社(IJV)は持分法適用会社であり、同社のキャッシュフローは連結キャッシュフロー計算書上に表示されない。  
\* コストは主なもの





※本スライドの記載内容については、今後税制の改正等に伴い変更の可能性があります。



	2020年1-6月	2020年1-12月	2021年						2021年1-6月
	平均	平均	1月	2月	3月	4月	5月	6月	平均
Brent	42.12	43.21	55.32	62.28	65.70	65.33	68.31	73.41	65.06
WTI	37.01	39.40	52.10	59.06	62.36	61.70	65.16	71.35	61.96
Dubai	40.64	42.21	54.77	60.86	64.41	62.89	66.31	71.57	63.47